

■ 平成26年8月6日（水）観光振興対策特別委員会県内調査

1 春日大社

ア 調査目的 にぎわい交流の拠点整備について

イ 調査概要

【第60次式年造替について】

- ・「式年」とは「定まった一定の年限」、「造替」とは「社殿を造り替える」という意味。神様が御座所を移すことを「遷宮」というが、春日大社では、本殿の位置は変えずに建て替えまたは修復を行うため、「造替」という。
- ・奈良時代の創建以来、ほぼ20年に1度、御殿の建て替え等が繰り返され、今回は60回目の節目の造替となる。
- ・造替によって、神威を次世代へ伝え継ぐとともに、その技術も伝承することになる。

○造替の諸儀式にあわせて、観光誘致という観点から、特別公開などの行事が行われる。

- ・御本殿特別参拝… H26年9月～。通常非公開とされる場所から特別に参拝できる。
また、万燈籠のように燈籠が灯される。
- ・木作始式、御慶之舞楽…前もって参列の希望者を募る。
- ・御神宝特別拝観…鹿島立御神影図、鹿島立鉾が拝観できる。
- ・国宝御本殿特別公開…仮殿遷座祭後から御本殿修理開始前の期間、特別拝観できる。
- ・お砂持ち行事…本殿前に敷き詰めている砂利を入れ替えする希望者を募る。
- ・春日若宮おん祭…今年で879回目。来年は記念となる880回目。

ウ 意見交換

Q：現在の本殿は文化財の関係で修復ということだが、いつ頃、建てられたものか。

A：文久3年、幕末である。それまでは、古い御殿を各村へ移していた。それは春日移しといわれ、大和はもちろん、山城、河内まで移された。文久3年以降は、国の文化財という理由で取り壊してはいけないこととなった。

Q：禰宜について

A：神社の職名である。社長は宮司、副社長は権宮司、その下が禰宜、禰宜以上が管理職にあたる。禰宜の下に平社員の権禰宜があり、神主見習いの出仕がいる。



2 記紀・万葉ゆかりの古墳群

ア 調査目的 記紀・万葉ゆかりの地について

イ 調査概要

◆天理市の記紀・万葉ゆかりの概要について

- ・山辺の道は、日本最古の道といわれ、道沿いには記紀・万葉ゆかりの地がたくさんある。
- ・メディア向けに天理市の観光をアピールするため、特に記紀・万葉に的を絞った資料を作成している。
- ・記紀・万葉のゆかりの地を、5つの切り口で表現する。

①石上神宮、②歌塚、③崇神天皇陵、④大和神社、⑤氷室神社

【石上神宮】

日本最古の神社。物部氏ゆかりの神社。万葉集には恋の歌が記される一方で、大和王権の武器庫であったともいわれ、強さと柔らかさを併せ持つ。かつては本殿がなく、禁足地という場所だけがあったが、崇拝対象となってきた。

【歌塚】

天理市櫛本町は柿本人麻呂生誕の地。人麻呂巡礼として、歌の題材となった地や遺髪を埋葬した歌塚等を紹介している。

【崇神天皇陵】

多数の古墳が日常的に存在している珍しい景色。近隣市の古墳と併せて巡ることを紹介している。

【大和神社】

神様のツートップの天照大神と日本大国魂神のうち、日本大国魂神が鎮座する。春の初めの大きな祭りちゃんちゃん祭りなどの行事も行われている。

【氷室神社】

古代には福住に氷室がたくさんあり、平城京時代には宮中に氷を献上していた。氷は酒を冷やすために用いられたといわれる。

○天理市には、記紀・万葉ゆかりの地が数多くあり、日常の風景の中に歴史が息づいていることを実際に来ていただいて体感していただくため、県や近隣市町村と連携をとりながら、どのように魅力を発信していくかについて検討している。

◆記紀・万葉ゆかりの古墳群について

【西山古墳】

- ・前方後方形としては、全国でも最大の規模。
- ・墳丘は上段を前方後円形、下段を前方後方形に築く独特な形を持っている。
- ・大和王権の北部の守を司る者の墓と推定。

【黒塚古墳】

- ・全長 130 メートルの前方後円墳であり、周囲は池が三方を囲む。
- ・平成 9 年度の発掘調査で石室が見つかり、33 面の三角縁神獣鏡と画文帯神獣鏡 1 面が出土した。
- ・展示館には、実物大の竪穴式石室、三角縁神獣鏡のレプリカが展示され、来館者数は年間 15,000 ～ 18,000 人。他の同類博物館に比べて多い。

【大和古墳群】

- ・3世紀後半から4世紀にかけて築かれた最古級の古墳群。
- ・ノムギ古墳、下池山古墳、中山大塚古墳は、平成 26 年 6 月 20 日に国の文化審議会から国指定史跡の答申される。

【赤土山古墳】

- ・全長約 110 メートルの前方後円墳。古代豪族和爾氏に関係する有力者の墓と推定。
- ・平成 4 年に国指定史跡となり、古墳周囲を巡れるように公園として整備。

ウ 意見交換

Q：宿泊施設の状況はどうか。

A：宿泊をとまなう観光は難しい。観光ホテルが閉鎖された。合宿やスポーツ関係で天理教の詰め所に泊まれる方はいる。明日香では、民泊で修学旅行生を受け入れていると聞いているので、市でもその手法等について研究していきたいと考えている。

Q：古墳群や山辺の道をまわる上で、交通網の整備について、市ではどのように考えているか。

A：交通空白地帯をなくすためのコミュニティバスはあるが、観光の面では、山辺の道は、もっぱら歩くことが中心である。奈良交通のバスルートが検討される中で、観光と絡めていけないかと考えている。また、県ではサイクリングを推進されており、他自治体の事例を参考にしながら、様々な周遊観光の手法について検討していきたいと考えている。



以上のことから、にぎわい交流の拠点として、また、記紀・万葉ゆかりの地として観光客誘致に向けて、積極的に観光情報の発信に取り組まれている